

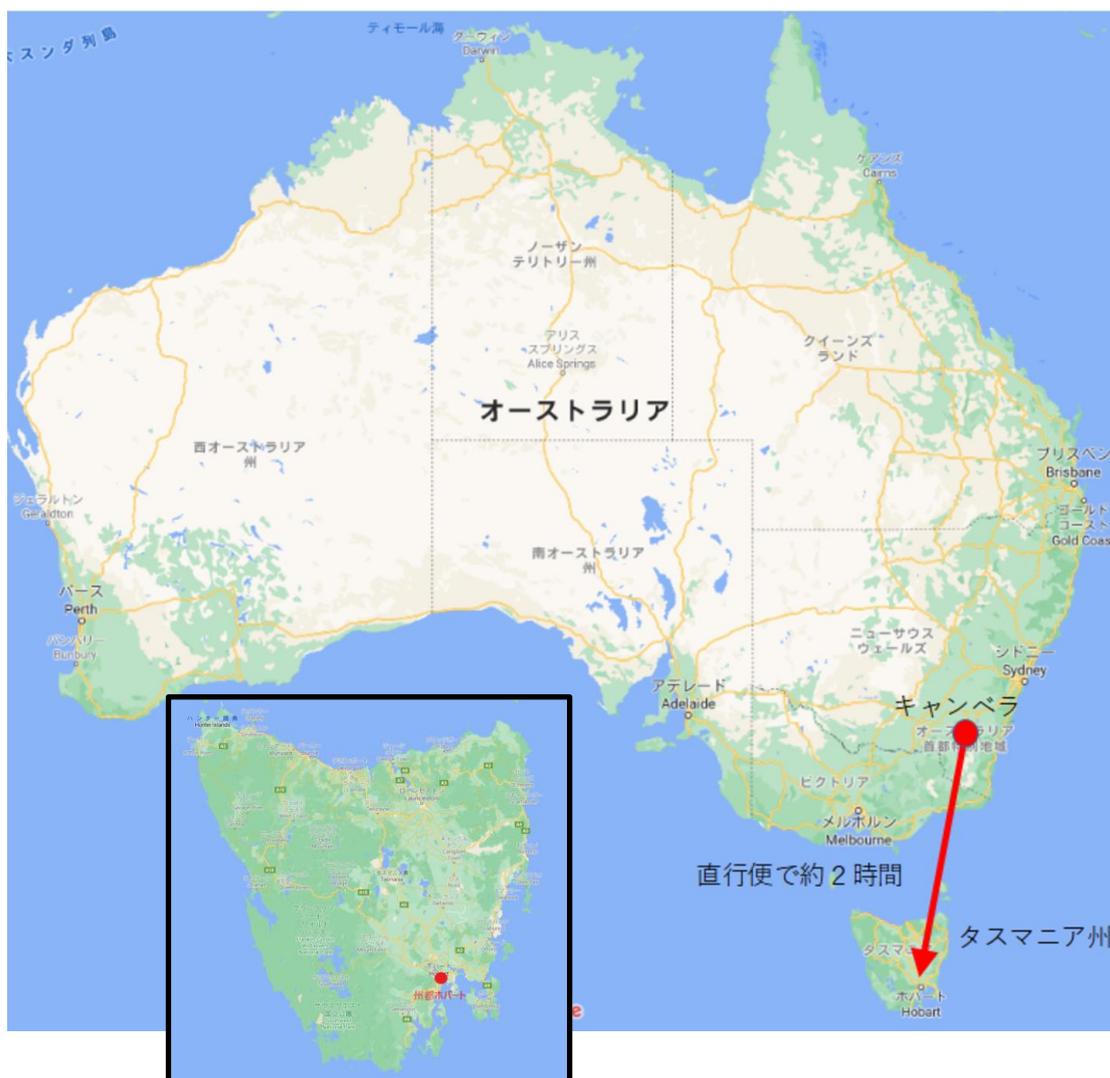
南半球便り（その18）：「タスマニア物語」

6月16日

先週、豪州行脚第一ラウンドの最後の出張として、タスマニア州に出張してきました。

1. タスマニアの特殊性

日本にいる方々にタスマニアと言っても、ピンと来ないかもしれません。豪州大陸の南東部沖に位置する島（地図参照）。北海道よりやや小さい面積に、人口は54万人。風光明媚、食材の宝庫として知られ、キャンベラに駐在する各国大使の間でも、格別に人気がある行き先です。



(出所：グーグル)

「であるならば、何故最初に行かなかったのか？」
極上のタスマニアを最後まで取っておいたのです。

実際に行ってみて、その自然の美しさと産物の質を実感しました。まさに「豪州の北海道」と言われる理由が、良く理解できました。



タスマニア州の州都ホバートは南緯 42 度、北半球であれば札幌と同じくらいの緯度に位置する美しい港町。

写真は、ダーウェント川に架かる「タスマン橋」で、ホバートの東と西を結ぶ 5 車線の要路。

2. 地球の底か、南極の入口か？

タスマニアの人は、素朴で謙虚です。「タスマニアのタキシード」がダウンジャケットを指すとは、新たな発見でした（笑）。

でも、何人かの人々が「地球の底」と形容したのは驚きました。
確かに地球儀で見ると底の方にあるからでしょうか？

同時に、「南極への入口」との言葉を何度も聞きました。タスマニアのセールス・ポイントの一つです。実際、日本の国立極地研究所が豪州南極局やタスマニア大学と連携している他、東京海洋大学の練習船「海鷹丸」が州都ホバートに12回も寄港するなど、南極に関するタスマニアと日本の結びつきには深いものがあります。



「南極への入口」では、初めて南極点に到達した探検家アムンゼンが迎えてくれました。



豪州南極局の展示室。新しい砕氷船「ヌイナ」（原住民の言葉でオーロラのこと）が今年にも就役予定です。

3. タスマニア・ブランド

身の回りの関わりと言えば、タスマニア・ブランドを誇る農産物、水産物の対日輸出でしょう。豪州の他州とは異なる気候条件を背景として、良質な水を確保して、それが品質の高い農産物の生産に繋がっています。



飼料を作る設備

典型は、タスマニア・ビーフ。イオンは、ブラック・アンガスと呼ばれる黒牛を 9500 頭余りも飼育する巨大な牧場（フィードロット）を所有。年間 2 万頭余りの牛肉が日本に輸出され、「オーギー・ビーフ」ではなく「タスマニア・ビーフ」としてスーパー店頭で人気を博しています。



この広大な牧場で「タスマニア・ビーフ」が生産されています。

タスマニア・サーモンの良質なことは、前号でも言及しました。オイスターやロブスターの美味なこと！この他、ウィスキーやワインも有望です。キャンベラの公邸でも、タスマニアワインを出すと、喜ばれます。

4. 次なる協力へ

こうしたブランドの上に築かれた協力（タスマニアの農産物・水産物輸出の 20%強が日本向けの由。）の上に立って、タスマニアの関係者が今熱い視線を日本に送っているのが水素開発です。

豊富な水力や風力を利用して豪州初となる再生可能エネルギーを利用して水素を製造する「グリーン水素」の実現が期待されています。日本との協力関係の構築に対する強い期待が各方面から表明されました。



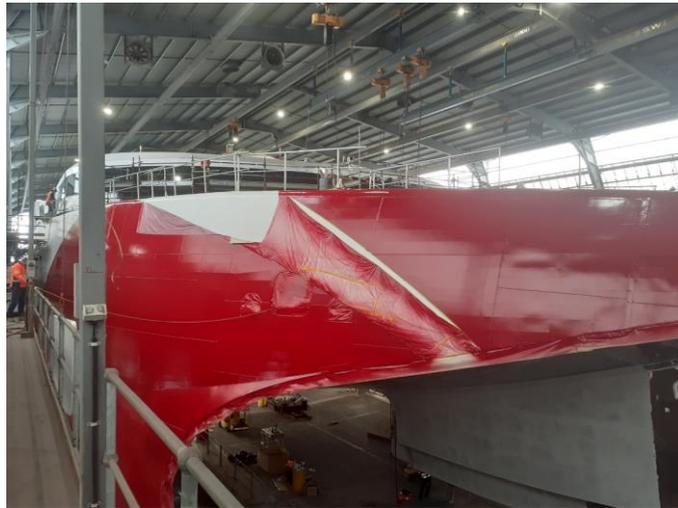
ガトウィン州首相との面会



バーネット州貿易大臣（右端）との面会

5. 製造業あり

現地に行って勉強になったことの一つは、製造業振興の必要性がしばしば議論される豪州にあって、タスマニアでは双胴船の製造が脈々と続いており、世界各地に輸出されていることです。INCAT 社の工場を視察して、その規模の大きさと関係者の自負に強く印象づけられました。



私たちが訪問した時も新造船が建造中でした。

同社幹部のキム・クリフォード女史に日本の名誉総領事を務めていただいていることは、心強い限りです。



クリフォード女史（左）に船内を案内していただきました。

6. 「完璧，完璧，完璧」

州政府主催の対日貿易振興のセミナーにも参加してきました（スピーチは[ここ](#)をご覧ください）。今まで日豪貿易に携わってきた豪州人コンサルタントの女性は、日本とのビジネスで肝腎なこととして、「完璧（perfection）」という言葉を一語三言繰り返して連呼しました。



セミナーには州内各地から約 100 名のビジネス関係者にご参加いただきました。

品質，納期，包装などの面で，日本人が求めるレベルが，豪州人にはそのように受け止められるのでしょうか。日本側にも，いま少しの大きさや遊びがあれば，もっとうまくいくのかもしれませんが。



セミナー終了後には、バーネット州貿易大臣とともに記者会見に臨みました。

同時に私から申し上げておいたことは、「日本市場で成功すれば，韓国，台湾，香港，シンガポールなど，他のどこでもやっつけられる筈。」とエールを送っておきました。フランク・シナトラの名曲「ニューヨーク」のもじりです。

7. 終わりに

今回の出張は、あいにく天候には恵まれませんでしたが。でも豪州では雨は「恵みの雨」なので、「恵まれた。」といった方が良いのかもしれませんが。

名にしおう東海岸の美しさを含め、まだまだ開拓しなければいけない美しい島。訪問を重ねつつ、私なりの「タスマニア物語」を紡いでいこうと思いました。



ホバートを一望するネルソン山から

山上信吾